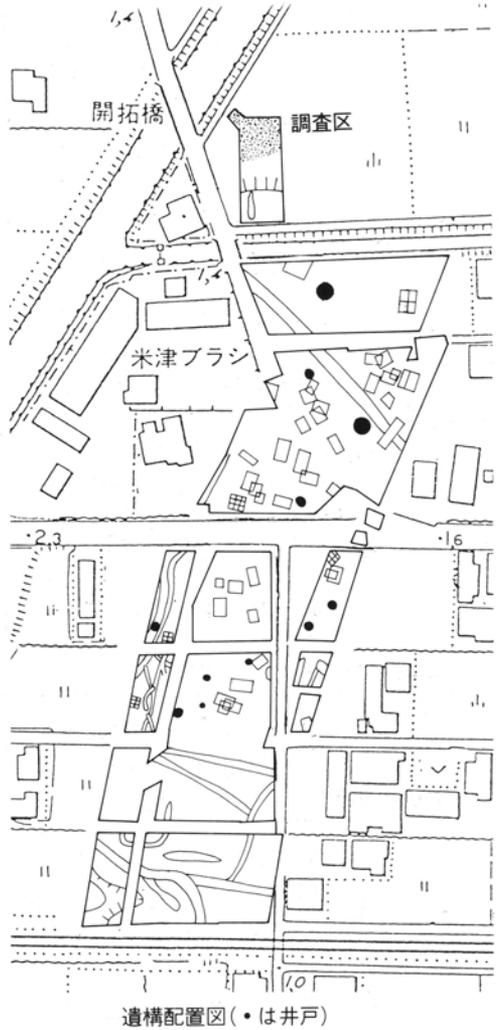


## おおぶち 大 湫 遺 跡

大湫遺跡は、海部郡甚目寺町大字甚目寺字大湫に所在する弥生時代～鎌倉時代にかけての遺跡である。標高は 1.2m 前後である。本センターでは昭和59・60年度に環状2号線建設に伴う事前調査を行なっているが、今回の調査は、福田川整備事業に伴うポンプ場建設に起因するものである。調査の結果、発掘区北半において福田川の旧流路（昭和初期）、南半で、これに向かってなだらかに落ち込む谷地形及び土坑を検出した。この谷地形の埋土からは弥生時代中期～室町時代末にかけての遺物が多量に出土したが、江戸時代以降のものはみられず、加えて旧流路の護岸がこの埋土を掘削していること及び旧河道中の遺物からみて、福田川は江戸時代（初期）に開削されたものと解される。また、この埋土中の遺物には、大湫遺跡の既発掘区において殆んどみられない時期のものがみられ、埋土が流水状況を呈していたことを考慮すれば、これらの遺物の中には、上流から運ばれてきたものが含まれている可能性が強い。（菅沼良則）



谷地形(北から)



全 景